

李登輝氏入国を容認 麻生外相「リタイアした人」



麻生太郎外相は十九日、東京・内幸町の日本記者クラブで記者会見し、台湾の李登輝前総統が五月に訪日を計画していることについて、「リタイアした李登輝さんはそんなに偉くない。大したことはない。大騒ぎするから話が込み入る」と述べ、入国を認めるべきだとの見解を示した。李氏訪日には、中国政府が強硬に反発している。

麻生氏は質疑の中で、台湾の記者が李氏の入国について「日本政府が条件を付けるのは不思議だ」などと質問したのに対し、「あなたの言っていることは全く正しい」と発言。さらに、李氏を「引退した老人」とみなすのが正しい対応だとの認識を示したが、「(李氏から)正式な申請はないので、この段階でどうするとは言えない」とも述べた。

李氏は平成十六年暮れから十七年初めまで観光目的で訪日。「『奥の細道』を歩きたい」などとして五月の再訪日を計画している。日本政府は昨年九月、台湾観光客への九十日間の査証(ビザ)免除措置を恒久化したものの、李氏の入国については、日台間の事前協議の対象としている。

(産経新聞) - 1月20日 2時54分更新